

心室中隔欠損症

しんしつちゅうかくけつそんしょう

VSD (Ventricular Septal Defect)

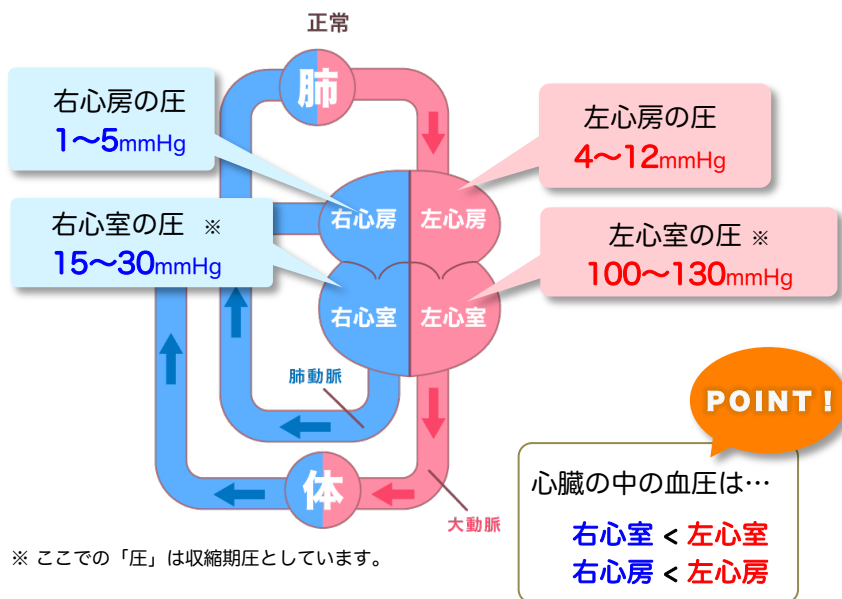
目次

1. 心臓のきほん
2. 心室中隔欠損症について
3. どんな症状がいつ出るの？治療のタイミングは？
4. 治療の方法は？
5. 治療の後には？

1. 心臓のきほん

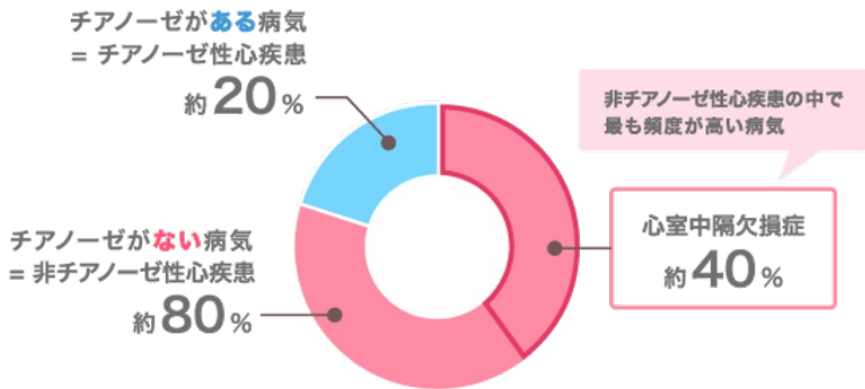
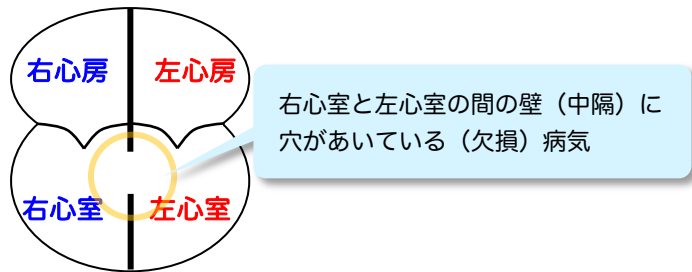
まず、病気について知る前に、心臓の心臓の4つの部屋とその役割、どのような順序で血液が流れているのかなど、「[心臓のきほん](#)」についておさえましょう（ホームページの上のタブ「動画で学ぶ」のページにPDFの説明文書もあるので参考にしてください）。

特に心室中隔欠損症を理解するために、おさえてほしいポイントは、**心臓の中の血圧**についてです。右心室よりも左心室のほうがポンプのパワーが強く、右心室と左心室をくらべると左心室のほうが**圧が高い**です。



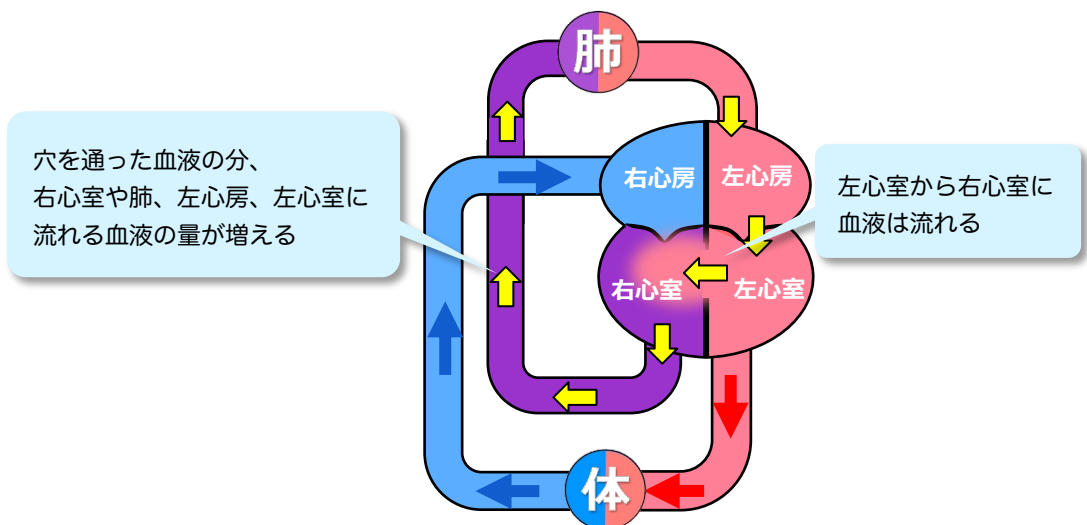
2. 心室中隔欠損症について

心室中隔欠損症は、右心室と左心室の間の壁（中隔）に穴があいている（欠損）病気です。心室中隔欠損症は、先天性心疾患の中では最も多い病気の一つです。健診などの時に心臓の雑音で気づかれることが多いです。



日本小児循環器学会 小児期発生心疾患実態調査2020 集計結果報告書より

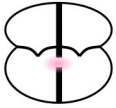
「1. 心臓のきほん」にあるように、心臓の中の血圧は、右心室より左心室のほうが圧が高いです。心房の壁に穴があれば、圧が高い左心室から、圧が低い右心室に向かって血液は流れます。そして、穴を通った血液の分、右心室や肺、左心房や左心室に流れる血液の量が増えます。



3. どんな症状がいつ出るの？治療のタイミングは？

同じ「心室中隔欠損症」でも、穴の大きさによって症状が出る時期が全く違います。また、穴の大きさによって治療のタイミングも違います。

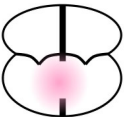
穴が小さい場合



穴が小さい場合は、穴を流れる血液の量は少なく、ほとんど症状がないこともあります。また、とても小さい場合は自然に閉じることもあるため、大きくなるまでしばらく様子を見ることもあります。

ただし、心臓の穴の場所などによっては、小さくても手術をしたほうがよい場合もあります（大動脈弁の変形がある時など）。

穴が大きい場合

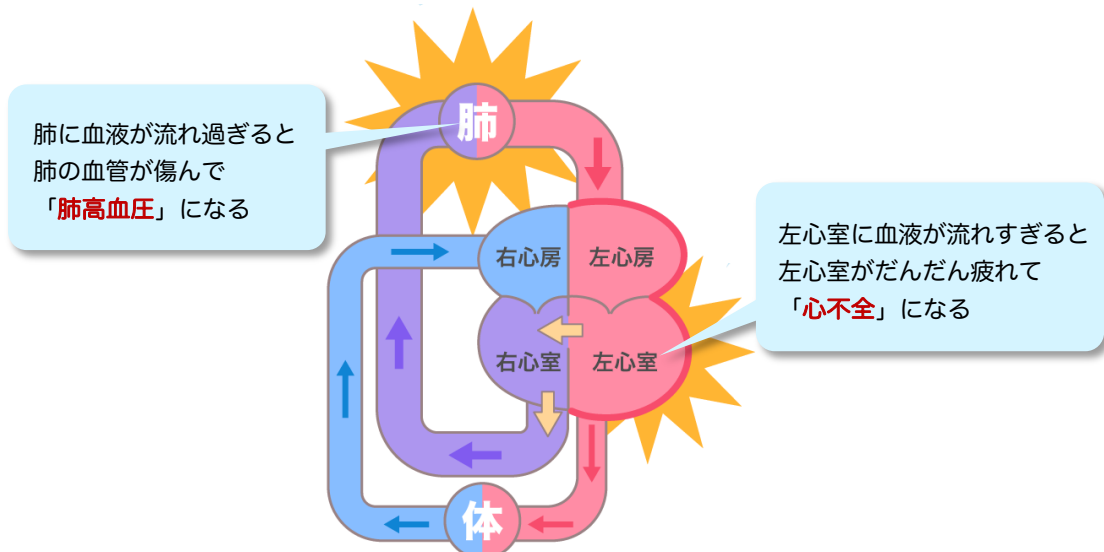


穴が大きい場合は、赤ちゃんの頃から、ミルクがたくさん飲めない、体重が増えない、元気がないなどの症状が出ます。

血圧が高い左心室と、血圧が低い右心室の間に穴があいていると、穴を通して左心室から右心室へと血液は流れ、流れる血液は穴が大きいほど多くなります。増えた分の血液は、右心室 → 肺 → 左心房 → 左心室と流れるため、特に「肺」と「左心室」に負担がかかります。

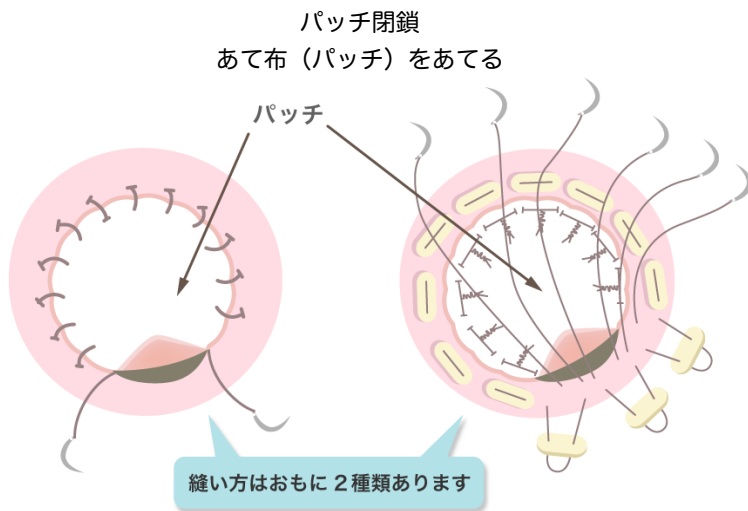
肺にたくさんの血液が流れ過ぎると、肺の血管が痛んで「肺高血圧」という状態になります。ただし、早めに手術をすれば、肺高血圧はよくなるのがほとんどですが、長い間、血液が流れ過ぎる状態が続くと、手術の後も肺高血圧が続いたり、その後もさらに悪くなることがあります。また、左心室にたくさんの血液が流れすぎると、左心室がだんだん疲れて「心不全」になります。

穴が大きいほど「肺高血圧」や「心不全」になるための、早めの手術が必要です。



4. 治療の方法は？

心室中隔欠損症は、心房中隔欠損症や動脈開存症のようにカテーテルでの治療は難しく、手術で穴を閉じます。基本的には、穴にあて布（パッチ）を縫いつけることで穴をふさぎます。



一般的な手術に関する説明は、それぞれのページをご覧ください。



心臓手術を受ける前に

手術を受ける前に気をつけること、予防接種についてや、入院前にやっておいたほうがよいことについて説明しています。



心臓手術の流れ

心臓の手術の基本的な流れ、手術室に入ったらどんなことをするのか、人工心臓についてなどについて説明しています。



心臓手術を受けた後

手術から退院まで、そして退院後に気をつけること、手術後の予防接種などについて説明しています。



5. 治療の後は？

適切な時期に手術をした場合、ほとんどの人がほぼ普通の人と同じように生活できて、運動などの制限もなく、薬を飲み続けることもほぼありません（あくまで病状によって異なります）。ただし、穴が大きく、肺高血圧や心不全の状態が長く続くと、手術の後も症状が残ることがあります。病状はそれぞれ異なるため、よく主治医の先生の話聞いてください。



心室中隔欠損症の手術後の人や、とても小さい穴なので「手術は必要ない」と言われた人の中で、時々大きくなった後や大人になってから「**感染性心内膜炎**」になることがあります。血液にたまたま入った細菌が心室中隔欠損の周囲や弁などについて、高熱が出たり、脳梗塞のような症状がでたり、心臓の弁が壊れて逆流したりすることがあります。また、心臓の中に細菌のかたまりがついてしまった場合は、手術が必要になることもあります。

そして、血液に細菌が入るきっかけで最も多いのが**虫歯**です。心室中隔欠損症の手術後の人や、小さな穴で手術は必要ないと言われた人は、定期的に歯科にかかって虫歯にならないようにしましょう。詳しくは下記のページをご覧ください。

感染性心内膜炎

感染性心内膜炎はどんな病気か？どんな人がなりやすいのか、ならないようにするためにはどんなことに気をつけるのか、説明しています。



あなたにとって最もよい治療法を、
主治医の先生とよく相談して決めましょう。



本ホームページは以下の研究費により運営されてます。

厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
「先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の生涯にわたる
QOL改善のための診療体制の構築と医療水準の向上に向けた総合的研究」